

# きほく通信

第2号

2007年  
2月8日  
発行

那賀地方  
患者家族会

きほく

会長 吉村由里子  
〒649-6203 岩出市桜台381

【事務局】〒649-6612 紀の川市北涌371  
森田敏子 0736(75)4413

## きほくから3名が発表

### NSCわなんれん研修講演会

難病患者の公費負担からの除外・自己負担額の増加、福祉サービス等に応益負担の導入、社会保障の後退など、格差社会はとりわけ難病患者など弱者に大きくその影響を与えているなか、昨年12月10日和歌山市プラザホールにおいてJPA（日本難病・疾病団体協議会）代表の伊藤たてお氏をお迎えし、研修講演会「患者会3つの役割」を開催しました。

1部では、伊藤たてお氏（写真左）が、「患者会は地域の社会資源」であるとし、第一の役割は「自分の病気を正しく知ること」、第二の役割は「病気に負けないために」、第三の役割は「本当の福祉社会をつくるために」患者会があるのだと、分かりやすくしかも新生の患者会きほくにとって自信を持てるようなお話をいただきました。

2部では、去る10月22日、那賀地方患者家族会「きほく」設立会で発表していただいた3名の方に発表していただきました。谷口陽子さん（スモン病患者）は「態度を一変した主治医」（写真下左）、吉村



由里子さんは「膠原病患者」（魂は健常者）（写真下中）、神森和子さんは「膠原病家族」（30年目の診断）（写真下右）

をそれぞれ本研修会で発表していただきました。参加者には涙しながら熱心に聞き入っていました。今後は、地域の社会資源

を自負し、会員同士で知恵を出し合い、希望のもてる療養ができるよう、同じ地域に住む患者や家族同士楽しい患者会にしたいと感じました。当日の参加者は70名でした。

## 大阪のおばちゃんタレント

### 辻イト子さんを迎え

## 平成18年障害福祉講演会開催

2月4日 貴志川町

那賀地方の障害者団体・難病団体共催で始まったハリアフリーミーティングは、17年度より障害福祉講演会と名前を変え、今回は貴志川生涯学習センターがやきホールに大阪のおばちゃんタレント、辻イト子さんを迎え、会場には岩出市、紀の川市から300名を超える参加者で盛大に開催されました。



辻イト子さんは自ら岸和田で「みかん山プロダクション」を主宰し、タレント活動をするともに、知的障害を持つお嬢さんとがんばってこられた半生を涙と笑いを交え、情熱的に話されました。

お嬢さんとの生活の中では「世間体ではなく子どもの立場に立つこと、常に前向きに生きること、あきらめず明るく生きること」と話し、このことが自分を含めた周囲の家族もい



向に行くことを、多くの経験談をもとに参加者の心に訴えました。

また会場のホールでは販売ブースも設けられ、きほくとわなんれん加盟のフラット（難病患者中途障害者の作業所）が共同で自主製品などの販売をしました。フラットからは点字名刺の予約受付、きほくからは神森和子さんが85歳のお姉さん手作りの「あつたか足力バー」が作品され、半田亮子さんは「紙製コサージュ」、田中節子さんはウール製手づくりたわしと息子さんとともに多くの古書を出品されました。

なお当日の売り上げは7100円でした。また清原菊代さんからも古書出品の申し出がありました。これについては販売ブースの広さのこともありましたが、田中さんの残りの古書とともに次回に回させていただきます。なお当日のきほくからの参加者は15名でした。皆さま方のご協力ありがとうございました。

